

Special Thanks

皆さまの温かいお気持ちは、病院で働くスタッフの大きな励みになっています。本当にありがとうございます。



I&H株式会社様、クオール株式会社様へ感謝状を贈呈しました

毎年、多額の寄附をいただいているI&H株式会社様、クオール株式会社様へ、大鳥病院長から感謝状を贈呈しました。継続的なご支援に、心より御礼申し上げます。



I&H株式会社様に「紺綬褒章」を伝達しました

「紺綬褒章」とは、国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与されます。本学は、内閣府賞勲局より、「紺綬褒章」の公益団体認定を受けており、寄附者様のご意向を確認のうえ、本学から文部科学省に申請(その後文部科学省から内閣府へ推薦)しています。



Harmony Vol.172 千葉大学病院広報誌「いのほなハーモニー」 第72号 2024年9月30日 発行

いのほなハーモニー Harmony

72

2024.SEP.



特集 150年物語 / CLOSE UP 病院長インタビュー

message

「入院セット」の定額制サービスが開始

「入院の準備が大変」という声にこたえて、2024年10月から、入院中に必要となる寝間着・タオル類・日用品などを1日715円(定額)でご利用いただけるサービスを開始します。

- ①洗濯物を引き渡すために家族などが来院せずに済む。
- ②入院日は手ぶらで来院することができる。
- ③日用品などは不足した場合、補充される。
- ④感染対策の基準を満たした清潔なものを使用でき、汚れた場合は、追加料金なしで交換もできる。



このほか、紙おむつセット(660円)もあります。

cover

大鳥精司病院長、ただいまヒアリング実施中!

写真は、2024年4月に病院長に就任して以来、精力的に行っている「病院長ヒアリング」の様子です。各部署・診療科の話聞き、意見交換をして、病院経営に活かしています。上層部だけではなく、現場スタッフの困り事にも迅速に対応するため、「病院長ラウンド」も行っています。さらに、病院長室を平日30分だけ開放して、カフェ『ビッグ・バード』と名付け、ざっくばらんに話そう!と職員に「来店」を呼びかけています。明るくユニークなアイデアを自ら発案して、対話重視の病院経営に取り組んでいます。※インタビューは4ページへ



個別のヒアリングなどに加え、全体会議も定期的開催しています。



大鳥精司病院長(詳細はP04へ)

【発行】 千葉大学医学部附属病院
〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL: 043-222-7171 (代表) Mail: byoin-koho@chiba-u.jp



千葉大学病院ホームページ
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/>
※バックナンバーをご覧いただけます



この印刷物は、SCOPE1とSCOPE2の温室効果ガスをゼロにした工場で印刷しています。

特集 千葉大学医学部・病院 150年物語

千葉大学医学部
および病院は、
おかげさまで
150周年を迎えました。



此度県内に病院が設立されることになり千葉町とその近隣の村々を挙げて喜んでおります。私達もこれを傍観しているわけにはいかないので有志の者達で財産に応じて名簿の通り献金したいので費用の万分の一にも御役に立てていただけるようお受け取り下さい。

出展:「千葉医学雑誌」87巻4号

当時の手紙の文面から、地元の皆さまの医療への期待が伝わってきます。



千葉町、寒川村、登戸村の有志が集めた1,225円(現:470万円)で本町に民家を借りて共立病院を設置

8月1日、院長、医員1名、調剤2名、事務2名の6名体制で診療を開始した

1874

公立千葉病院を改組し、県立千葉医学校および附属病院設置

1882



「東洋一の病院」と称された美しく堅牢な建物。戦時中は空襲に耐え、多くの傷病者を受け入れました。(のちに医学部本館となる)

新築された
千葉医科大学附属医院
(1937年頃)



県立千葉病院を医学専門学校附属医院と改称

1922

千葉大学医学部附属医院と改称

1949



国立大学法人法の施行により
国立大学法人へ移行

2004



みなみ棟改修
(7月開院)

2009



新外来診療棟竣工
(7月開院)

2014



新中央診療棟竣工
(2021年1月開院)

2020

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症との闘いは、2023年5月まで続きました。地域医療の最後の砦として、通常診療との両立に丸となって取り組みました。



1876

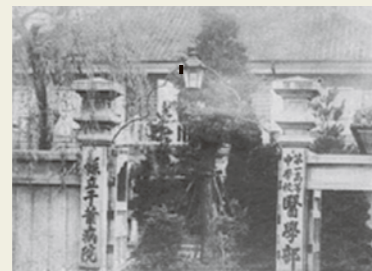
公立(県立)千葉病院と改称



移転して医学教場も併設し、57名が入学。近代医療の確立へと駆け出しました。

1887

1府10県(関東甲信越・東海)を代表する国立の第一高等学校医学部に昇格



負担金50万円(現:19億円)を支払うことになった千葉県では、県民から反対の声が上がっていた。このとき、県議会で板倉中議員が1時間の大演説を行った。この熱弁で議場は水を打ったようになり、議案は可決された。こうして地方の一医学校から1府10県(関東甲信越東海)を代表する医学部になった。(1888年、附属医院は県立千葉病院に改称)

1923

官制改正により、官立千葉医科大学附属医院と改称

1977

新病院竣工
(1978年3月開院)



板倉中議員 「50万円の予算は真に容易ならぬ負担である。我々千葉県民としては血と涙を絞るが如き大金である。しかし、遠く本県の将来を案ずるならば今日の苦悩も明日幸福となることを期して待つべきである。将来、医科大学にまで向上発展せしめねばならぬ。この意気をもって諸君の賛同を求む」

写真の出典:房総自由民権資料館

2007

ひがし棟竣工
(2008年5月開院)



約30年ぶりに新病棟が完成。感染症病棟5床の整備や屋上ヘリポートを新設。これまで陸上ヘリポートでは対応できなかったドクターヘリ、消防ヘリの離着陸施設となりました。

2011

にし棟改修
(4月開院)



2015

外来診療棟改修
(7月開院)

1.5テスラの高画質MRIでリアルタイムに病巣を「見ながら」治療できる放射線治療装置「MRIニアック」を日本初導入し、2021年12月、治療を開始しました。

2017

救急外来棟竣工
(4月開院)



2024



明治

大正

昭和

平成

令和

- 1874年 文明開化の象徴「ガス灯」が銀座通りに設置された
- 1877年 西南戦争が勃発
- 1888年 大日本帝国憲法を公布
- 1894年 日清戦争勃発
- 1904年 日露戦争勃発
- 1914年 第一次世界大戦勃発
- 1923年 関東大震災発生
- 1939年 第二次世界大戦勃発
- 1941年 太平洋戦争勃発
- 1945年 第二次世界大戦終結
- 1995年 阪神・淡路大震災発生
- 2011年 東日本大震災発生
- 2012年 山中伸弥iPS細胞研究所所長ノーベル生理学・医学賞受賞
- 2020年~2023年 新型コロナウイルス感染症の世界的流行

150年間培った「質の高い医療」を さらに発展させて、次の世代へ

2024年7月に創立150周年を迎えた千葉大学医学部および病院。
その節目の年に新たに就任した大鳥精司病院長に、お話を聞きました。



Profile

1994年千葉大学医学部卒業。2002年カリフォルニア大学サンディエゴ校に留学。2016年に整形外科学教授に就任。2020年に千葉大学医学部附属病院副院長に就任し、2022年より千葉大学副学長を兼務。2024年4月より千葉大学医学部附属病院 病院長に就任した。

専門は脊椎で、椎間板性腰痛をメインテーマに研究活動を行っている。日本腰痛学会理事長、日本運動器疼痛学会理事長、日本疼痛学会理事などを兼任する。

— 2024年4月1日、病院長に就任されました。意気込みをお聞かせください！

これまでは、整形外科長として診療や研究を行う一方、副院長として4年間、病院運営に携わってまいりました。今後は病院長として、患者さんのために良質かつ適切な医療が提供できる病院づくりに努めてまいります。

千葉県における当院の役割は、「最後の砦」として、当院でなければ、診ることのできない患者さんを診察し、治療することです。そのため、特にがんや臓器移植など、高度急性期医療や先進医療の提供に力を入れています。それに伴い、患者さんが安心して安全に治療を受けられるよう、多職種連携によるチーム医療体制を強化しています。



— 病院長として大事にしていることを教えてください！

すべての職員が健康で仕事に充実感を感じられる職場環境を整えることです。2024年4月から「医師の働き方改革」に関する法律が施行され、医師の時間外労働の上限規制が始まっています。病状説明は勤務時間内に行うなど、患者さんご家族にもご協力いただきながら、診療体制の適正化に取り組んでいるところです。長時間労働は、心身を疲弊させ、パフォーマンスの低下に繋がります。心身ともに余裕をもって患者さんに向き合うことこそ、患者さんの診療に大きく役立つと信じています。さらに当院では、多くの職員の意見を聞くための場を設けています。私の苗字に因んで、「カフェ『ビッグ・ボード』」と名付けて病院長室を開放し、お茶を飲みながら、職種や年齢などに関係なく、職員に自由に意見を言っていたがいて風通しの良い職場環境づくりに日々努めています。



手術を行う大鳥病院長(左)
現在も月1回は執刀しています。

— 医師を志した理由は

子どもの頃から理系で、特に生物、植物が大好きだったんです。私が住んでいたのは東京都葛飾区四つ木で、近くに荒川が流れていて、当時は金町、水元公園などに行っては昆虫やザリガニなどをとって遊んでいました。ですから、理学部や農学部、または生物好きの延長で人体にもすごく興味があり、医学部も候補になりました。医師を選んだ大きな理由は、開業医をしていた父の存在だと思います。内科ですのでも何でも診ていて、往診もやっていたので、休みなく一生懸命患者さんに対応していました。子どもながらに「大変な仕事だな」と思っていたのですが、その姿は誇らしく、気が付けば、4人兄弟の長男は消化器内科医、2番目の姉が眼科医、3番目の私が整形外科医、一番下の妹だけです、他の職業を選んだのは、(笑)。

— 千葉大を選んだのは?

消化器内科医だった父が、「胃の二重造影法」の開発で朝日文化賞を受賞した千葉大学の市川平三郎先生と白壁彦夫先生を心から尊敬し、「臨床医になるなら、千葉大学で学ぶべき」と勧めたこともあり、千葉大学を選びました。

専門を整形外科の脊椎と腰にした理由は、研修医2年目のときに関連病院で1年間指導を受けた先輩医師の存在が大きかったです。脊椎が専門で、手術がとても上手く、技術面だけでなく人間性も素晴らしく、広い視野で物事を考え、皆が思いつかないような新しいことを発想し、実行していく人でした。「ああ、こんな医師になりたいな」と強く思いました。

— 医師を志して、特にやりがいを感じる時は、どんなときですか？

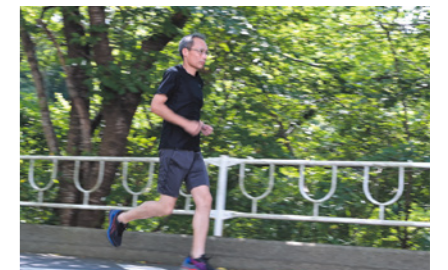
医師であれば、皆同じだと思いますが、患者さんの笑顔が見られたときですね。「ありがとう」と感謝され、元気に退院されていく姿を見ると、医者冥利に尽きます。そしてまた、次の患者さんもがんばって治そうという活力にもなります。

まだ助手だった頃の話ですが、脊柱管狭窄症の患者さんを治療したときのことで。とても治療に難渋し、術後感染症や他疾患の発症などが原因で全身麻酔手術を複数回行い、入院期間が2年以上に亘った患者さんがいました。悪戦苦闘しながらあきらめることなく治療を続けたことで、自分自身とても勉強になりましたし、何より自力で歩けるまで回復した患者さんを見るのができて、とても嬉しかったです。この経験は、確実にいまの自分の礎となっています。

— 当院は2024年に150周年を迎えました。今後どんな病院にしていきたいですか？

千葉大学病院は、いまから150年前に「この地域に病院を」という人々の願いから生まれた病院です。以来、地域の患者さんのため、時代や地域のニーズに応じ、つねにより高きものをめざしながら、千葉県の最後の砦として、地域に根差した医療を提供してまいりました。これからも偉大な先輩方が築き上げた礎をさらに発展させ、質の高い医療の提供に努めていきたいです。

そのために、高度急性期・先進医療・小児疾患・周産期医療・高齢者医療・ゲノム医療・予防医療にも対応できる病院として、関連病院との役割分担を明確にし、連携を深めながら、地域の皆さまの健康促進に寄与してまいります。



健康維持のため、毎朝6kmのランニングをしてから出勤しています。

「医師である前に、人であれ」

DMATは災害派遣医療チームのことで、ディーマツと読みます。



Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとってDMATです

大きな災害や事故が起きた時、いち早く駆けつけて、医療支援ができるよう、専門の訓練を受けた医療チームが全国に配置されています。

— DMATにはどんな人がいるの？

専門的な訓練を受けた医師、看護師、その他の医療職や事務職員が担う業務調整員の約5名で1チームを作って活動しています。当院では現在、「日本DMAT」に23名、千葉県内を活動範囲としたCLDMAT(Chiba Limited DMAT)には15名が在籍し、災害が起きたら、厚生労働省のDMAT事務局や県からの派遣要請をもとに全国各地に出動しています。

千葉大学病院の隊員数

	医師	看護師	業務調整員
日本DMAT	10名	7名	6名
千葉県内限定CLDMAT	4名	5名	6名

また、災害時の救急医療に貢献できる「地域災害拠点病院」として、県の災害対策室と連携しています。

— 実際にどんな活動をしているの？

今年1月1日に起きた能登半島地震では、厚生労働省からの要請を受け、七尾市に医師1名、看護師2名、業務調整員(事務職員1名)の

計4名が1月20日に出動しました。

被災地には、全国からDMATが入り替わりで支援に来ているので、被災者との会話で「どこから来たの?」と聞かれたり、背中「千葉DMAT」の表示を見て「遠くから来てくれてありがとう」と声をかけられたりしました。



能登半島地震で医療支援を行いました

— 被災地に行く時、気を付けていることは？

現地での自分たちの食料や物資は数日分確保して出動することが基本です。また、当院には緊急処置ができる移動式診療スペースを備えたECMO(エクモ)/DMATカーや、医療機材を備えた高規格救急車があり、緊急搬送や被災地での治療もできるように準備しています。



2021年、日本財団様と千葉銀行様のご支援で導入したECMO/DMATカー(右)と高規格救急車

— 千葉県内でも災害が増えています

被災地では住民同士で助け合う姿をよく見かけます。自助、公助に加えて共助が重要で、普段からのコミュニケーションが災害時には大きな力になると感じます。我々も訓練などで関係各所と連携を強めています。最後に避難所生活の注意点をまとめました。

避難所生活のポイント例

- おくすり手帳と既往歴を持参する
- 水分はこまめに取る
- 手指衛生やマスク着用で感染症対策!
- こまめに体を動かす(エコノミークラス症候群の予防)
- コンタクトレンズは使用しない(手を洗わずに目を触ると結膜炎になる)

答えは②です。

当院の起源は、150年前の1874年7月に設立された共立病院です。地域の人々がお金を出し合って民家を借りてスタートしました。2年後、県営となり、医学教場が併設されました。今も昔も、そしてこれからも、当院は地域住民の健康を守り、医療の発展に貢献できる病院を目指します。

※くわしくは2ページへ



Q.

千葉大学病院の起源となる150年前に作られた病院はど~れ?

- ① 明治政府が設置した官立病院
- ② 地域の有志による共立病院
- ③ 戊辰戦争の傷病者の救護施設



共立病院の設立から2年後、県営の「公立千葉病院」となり、医学教場も併設されました。



01

医学部と病院は、おかげさまで創立150周年を迎えました

いすみ鉄道「メディカルトレイン」運行 小湊鐵道もヘッドマークつき記念列車

150周年タイアップ企画として、房総横断で地域をつなぐ小湊鐵道といすみ鉄道にご協力いただき、150周年記念ロゴをヘッドマークに掲げた列車を運行しました。いすみ鉄道はラッピングと医療について学べる車内掲示を行った「メディカルトレイン」を7月11日から8月31日まで運行。大多喜町で総合診療科の上原孝紀医師らによるミニ健康講座も行いました。小湊鐵道は、8月1日から1週間、15両の車両にヘッドマークを掲げて運行しました。



7月10日、いすみ鉄道大多喜駅で出発式を開催しました



千葉大学のマスコット「イノ」がラッピングされたいすみ鉄道の車両(左)と150周年のヘッドマークをつけた小湊鐵道の車両

医学部・病院150周年記念式典を開催しました

7月20日、「千葉大学医学部・病院創立150周年記念式典」を開催し、熊谷俊人千葉県知事をはじめ、224名にご参集いただきました。三木隆司大学院医学研究院長は、関係者の方へ謝辞を述べるとともに、「今後さらなる飛躍によって、教職員一同、一層努力していきたい」と決意を語りました。式典後は、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(IIIS)機構長の柳沢正史氏による学術講演会、ピアニストの西川悟平氏による文化講演会が行われました。

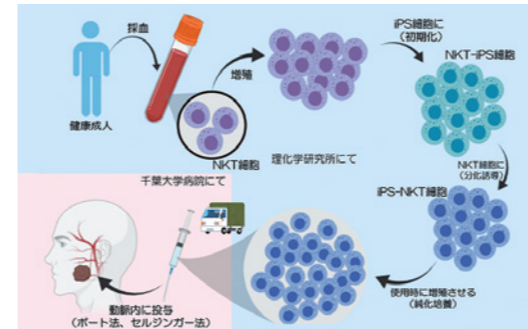


多くの来場者で溢れる、病院の「ガーネットホール」



(左)筑波大学IIIS機構長の柳沢正史氏による学術講演会 (右)ピアニストの西川悟平氏による文化講演会

02



iPS-NKT細胞動注療法に関する 第I相医師主導治験が完了しました

当院と理化学研究所生命医科学研究センターは、iPS細胞からNKT細胞を作製した「iPS-NKT細胞」を、頭頸部がん患者さんの腫瘍血管内に直接投与する治療法を第I相医師主導治験として行い、iPS-NKT細胞を高用量で投与した際の人の安全性を確認しました。

03



千葉大学合唱団17名が美しい合唱を披露しました

サマーコンサートを開催 外来診療棟に響く美しい歌声

8月5日、千葉大学合唱団のサマーコンサートが外来診療棟で開催されました。「さんぼ」「上を向いて歩こう」「ていんさぐぬ花」など合計8曲を披露していただき、患者さんはもちろんのこと、職員も優しい歌声に心休まるひとときを過ごしました。

